

3年生AB組 「電気で明かりをつけよう」

SDGsの学習として「住みやすい町づくり・生活に欠かせない仕事」について、教科の枠を超えた横断型の学習を進めています。今回は理科と社会の教科の横断です。3年生の理科では「電気で明かりをつけよう」という学習単元があります。電気は私たちの暮らしにとっても大切であること、そこから電気の歴史や発電方法、安定した電気を供給するための整備や点検の仕事の様子を動画で確認しました。人類が電気を使えるようになったのは、約130年前からであることや乾電池を発明したのが日本人であることを知り驚いていました。

最後には豆電球と乾電池を使って明かりをつけるには、どのようにすればよいか、各自の実験キットを使って楽しく調べました。

今回の授業が電気の学習のスタートになります。教科横断的な内容で、さらに学びを深めていけるとよいですね。

